

同窓会通信

No.10

平成 30 年 5 月 10 日発行

同窓生のみなさまこんにちは

天理看護学院同窓会 会長 鶴巻 智恵

いかがお過ごしでしょうか。おちばは後継者講習会を終え、ひと息ついています。この通信をみなさまにお届けするころには、桜の季節が過ぎ、ゴールデンウィークも終わっていることでしょう。みなさまへのおしらせと特集を載せています。どうぞお楽しみください。

・おしらせ

①同窓会通信の発行継続

前回の同窓会通信で通信発行から Facebook への移行をお知らせしましたが、みなさまからのご希望や病院からの要望などもあり、同窓会通信の発行を続けることにいたしました。

②同窓会のあり方についての検討

今後の同窓会のあり方について、天理医療大学、天理医学技術学校、天理看護学院 3 校の同窓会役員が集まり、準備委員会を立ち上げました。現在、話し合いを重ねているところです。名称は仮ですが、「学校法人天理よろづ相談所学園同窓会」となっております。

③天理看護学院同窓会総会の日程の決定

次回の同窓会総会の日程が決まりました。平成 32 年 10 月 25 日（日）となっております。万障繰り合わせてぜひご参加お待ちしております。

・特集

①憩の家看護部から

憩の家看護部を支えてくださっている現看護部同窓生より、学生時代の思い出や同窓生のみなさまへのメッセージをいただきました。

②後継者講習会救護ひのきしんに参加して(感想)

昨年度開催された後継者講習会の救護ひのきしんに参加してくださった方々から寄せられた感想をご紹介します。

③憩の家健康管理室からこんにちは

健康管理室室長の種田先生からのメッセージと、救護係から救護ひのきしん参加のお願いと、ご案内をしています。

特集 1：憩の家看護部から

憩の家看護部を支えてくださっている現看護部同窓生より、学生時代の思い出や同窓生へのメッセージをいただきました。

- ①学生時代にうれしかったこと、楽しかったこと ②学生時代に思い出深かったこと
③同窓生に伝えたいこと ④後輩へのエール

副院長、看護部長 阪井 眞利子（2科5期生）

- ①あまりに遠い過去のこと、うれしかったことも楽しかったことも何も浮かんでこないのが本音です。勉強以外の、スキーやキャンプは楽しかったという印象です。また寮生活は寝食をとりにした同級生との絆を深めてくれました。
- ②増本教務主任に授業で「あんたたちは、医師と看護師は車の両輪のようなものだ本当に思っているか」と問われたことは今も記憶しています。キャンプやスキーは何処でもやっているものと思っていましたが、そうではないことを卒業してから知りました。私の学生時代には、北軽井沢に日本看護協会が所有していたキャンプ場で、学生対象の5日間の野外活動としてキャンプに参加したことは思い出深い体験でした。
- ③おちばで育てられ、憩の家に勤務した日々は貴重な時間でした。私は10年で地元香川に帰りましたが、縁あってまた「憩の家」に戻ってきました。もう一度「憩の家」で勤務したいと思っている方はぜひ連絡してください。皆様の力を必要としています。
- ④病院は、本館（南棟）・外来棟・東西棟・そして白川分院と建物と機能が分散しているなか、准看護師養成所時代から培われた憩の家のモットーである「笑顔と親切」で看護師たちは懸命に努めています。それは一度離れたからこそ実感できるのだと思います。私たちのなかに意識せずとも身につき、当たり前になっているこの「憩の家」の看護の精神は脈々と受け継がれています。それはおちばを離れても日本全国で同様に実践されていると思います。「憩の家の看護師はどこかが違う」と言われるその看護に誇りを持ってこれからも努めてまいります。



前列左より 畠川副看護部長、阪井副院長・看護部長、堀畑副看護部長
後列左より 柏田副看護部長、青山副看護部長

副看護部長 嵐川 直子（2科13期生）

- ①勉強は苦手でしたが、水上安全法やスキー実習、学院祭、謝恩会等の行事を企画運営し、増本先生にほめられたこと。
- ②増本先生がお忍びで寮の部屋に遊びに来られ、数人で夜遅くまで盛り上がったこと。
- ③天理看護学院で学べたこと、よろこび寮で生活できたこと、すべてまわりの人達のお陰です。感謝の気持ちを伝えたいです。
- ④看護はちょっと大変な仕事ですが、やりがいのある大切な仕事です。誇りをもって学び実践しましょう。

副看護部長 堀畑 佐知子（2科15期生）

- ①同僚や先輩、後輩と楽しく過ごせた寮生活。実習で疲れがピークになる週末の手作り食事会でワイワイ騒いでリフレッシュできました。また頑張ろうと元気が出ました。
- ②学校生活はすべてにおいて思い出深いです。その中でも、3泊4日夏の本島キャンプが一番印象に残っています。非日常的な生活を先輩・後輩と共に過ごす中で、互いに助け合い先輩・後輩の絆が深まりました。本来は水上安全訓練が目的で、1日泳ぎっぱなしでヘトヘトでしたが楽しい思い出でした。
- ③入院してこられた患者・家族さんから、「天理の看護師さんはやさしく親切だ」と聞かされると、うれしく思います。これからも笑顔と親切をモットーに安らぎの看護を継承していきたいと思っています。
- ④これからも共に天理で培った看護を、看護の現場や救護活動を通して伝えていきたいと思います。

副看護部長 青山 弘子（2科19期生）

- ①2科19期生は1科1期生ととても仲が良く、いつも助け合い、支え合っていました。学生生活を共にした時期は本当に楽しかったです。参拝後のNHK「みをつくし」、皆で顔をくっつけて観ていましたね。
- ②全てが勉強、本島のキャンプで栄養係を担当し、野外キャンプなのに野菜など食材1つひとつのカロリー計算をしたことが、今でも忘れられません。カロリー表の冊子を見るたびに思い出し、一瞬若返ります。
- ③どこにいても何があっても繋がりを感ずることが出来ます。先輩の築き上げた憩の看護をずっとずっと守りつなげたいです。皆、憩の家に帰ってきて下さい。
- ④私達の大事な宝です。

副看護部長 柏田 真由（1科2期生）

- ①病院実習で、受け持ち患者さんに逆に励まされることで頑張ることができた。実習がつかったことはなかった。
- ②夏の本島キャンプ：1科と2科の先輩後輩が屋外での寝食を共にすることで寮生活とは違った連帯感が生まれたと思う。戴帽式：木造校舎の食堂で行われた式は、感慨深く残っている。実習病棟で経験できなかった技術項目を指導者から口頭で質問を受け、技術確認するという時間があり、当時の実習指導者の対応に頭が下がる。
- ③④看護職に求められる社会の期待は、今後、ますます大きくなります。複雑な現場に適応・対応していくことは簡単ではありませんが、努力を惜しまず頑張ってもらいたい。1人では乗り越えられないが、支えられ、そして支え進んでいけると思います。

特集 2：後継者講習会救護ひのきしんに参加して（感想）

昨年度おちばで開催されました、後継者講習会の救護ひのきしんに参加してくださった方からの感想を紹介いたします。

小西 文恵（2科2期生 旧姓：白石）

約8か月に亘り企画されました講習会の救護に参加できました事、嬉しく思います。担当者の皆様お世話になりました。救護ひのきしんができました事、ホット安心と共に、通らせてもらいました事感謝しています。同窓生としていつも思いますことは、こうして元気に通らせてもらい、ひのきしんもできた事です。先輩、後輩、先生方との出会えることもいいですね。おちばにいますのでこれからも… できることをと考えています。

升本 良子（2科5期生 旧姓：米田）

10年前にも同じ行事があり、OB ナース・スタッフの多数参加で、賑やかに楽しく過ごした記憶があります。今回は担当者交代もあり、ほぼ1名ずつの配置で寂しい救護でした。1人でできないこともないけれどいつもの楽しさがなく残念でした。今後は依頼を待つのではなく積極的に申し込みませんか？その都度新しい発見があり楽しいですよ！各期に2～3名ずつでも心ある方をお待ちしています。同窓生の有無にかかわらず輪を広げて楽しみましょう。

※メール・ラインでも簡単に申し込めます。

中島 香代子（2科8期生 旧姓：丸山）

救護ひのきしんへの参加は、後継者講習会への参加対象である子ども3人の代わりのつもりで、出させて頂きました。看護の現場から離れての参加でしたから、先輩や同期の方に支えて頂き、楽しくひのきしんに励むことができ、有難く貴重な体験となりました。

上名 照代（2科12期生 旧姓：中上）

38母屋（母子、女性の宿舎）でのひのきしんをさせて頂きました。小さな子供さんを連れての参加であったため、講習会を終えて宿舎に戻った子どもさんが救護に訪れることが多かったです。おちばでの教えを求めて帰られる方々を看護用木として少しでもお手伝いさせて頂けたことを嬉しく思っています。



御本部中庭の梅

小野 ひとみ（2科11期生）

昨年6月、定年を迎えさせていただきました。退職前より救護ひのきしんの参加者が少ないことは聞いていたので、天理を離れるけれど、暫くは仕事もしないし、参加させてもらおうかなと考えていました。実際に参加させて頂くと、移動の送り迎えをはじめ、至れり尽くせりで恐縮してしまいました。もちろん、救護物品は過不足なく、ひのきしん者が困らないようマニュアルも整えられ安心して参加させて頂くことができました。空いた時間に婦人会や少年会の方、同窓生の話聞かせていただいたり楽しい時間も過ごせました。ありがとうございました。

同窓生の皆様、たくさんの救護ひのきしんがあります。お時間のある時に参加されてはいかがでしょうか？

三矢 栄枝（2科13期生 旧姓：吉田）

3回救護ひのきしんに参加させていただきましたが、毎回いろいろな方が救護室にこられ、身上だけでなく精神的なものも抱えながら生活されている方が多いこと学ばせていただきました。婦人会の方の対応、お話し仕方など見ることができ、あわただしく過ぎましたが、勉強させていただきました。ありがとうございました。



御本部東筋の桜

的場 美幸（1科2期生 旧姓：山中）

今年1月中旬の泊りで、インフルエンザの方が多いのかなと思っていましたが、20代の心の病の方が次から次へと来られたのには驚きました。他の人と同じ部屋に入れず、食事が喉を通らないなど悩みを抱えていて、少しお話ししたり、婦人会のひのきしんの方におさづけをして頂いたりしました。あと余談ですが、天理高校の同級生が、後継者講習会お世話係のひのきしんに3人偶然参加していて、プチ同窓会ができ元気をもらいました。

片岡 美喜枝（2科21期生 旧姓：山口）

私は後継者講習会最終日の半日の救護に参加させて頂きました。救護所に同じ方の名前が何度か書かれていました。その方が最終日にも来られました。私は話を聞くことしかできませんでしたが、その方がどうか最後まで参加できますようにと願う思いで聞かせて頂きました。その事を今振り返ると、相手の事を願う思い、祈る思いとは私の看護の原点ではなかったかと思ひ返していました。救護ひのきしんに参加させて頂きありがとうございました。

正田 世津子（1科4期生 旧姓：室之園）

私がひのきしんをさせていただいた日は、落ち着いていました。ひのきしんを教会本部の方と一緒にさせて頂き色々な事に対応出来るよう配慮されていること、不安に思っていること、私達の存在が安心につながっている事を感じさせて頂きました。参加させて頂きありがとうございました。

井上 友子（1科5期生 旧姓：石渡）

1月下旬の後継者講習会の救護に参加させて頂きました。寒い中ではありましたが、たくさんの方が参加されていました。中には骨折されていて松葉杖を使っておられたり、体調不良の中、風邪薬を飲みながら参加されている方もおられたり、講習会への熱い思いが伝わってくるようでした。私自身は後継者講習会に参加しておりませんでしたので、このような形ででも携わることができて良かったと思いました。

池嶋 三賀（1科7期生 旧姓：飯田）

身上を持ちながら参加された方や小さな子どもさんを連れながら参加された方など、多くの方がおちばに帰って来られていました。最終日のひのきしんでしたが、疲労が蓄積している方が救護所に来られる印象でした。しかし大きなトラブルなく終了できたのは、御守護かと感じました。

吉川 美幸（1科11期生 旧姓：池野）

私は10年前に後継者講習会に参加しました。その時の胸の高鳴りを思い出しながら、救護をさせて頂きました。ドアに指をつめた方がいましたが、すぐに対策を係の方がたててくださいました。幸いにも休養が必要な受講生は出ませんでした。10年に1度の開講ですが、道につながる方々の意気揚々とした姿に、私も力を貰い、また10年後、関わらせていただきたいと思います。



南病棟うしろの公園の桜

特集 3：憩の家健康管理室からこんにちは

憩の家健康管理室 救護係：岡田 三枝（2科10期生 旧姓：瀬藤）

同窓会員のみなさまには、本部行事の救護ひのきしんに、お力添えを頂き誠にありがとうございます。

平成29年度は、恒例のこどもおちばがえり救護と、その直後から開催された後継者講習会救護が、主な救護活動でした。10年振りに開催の後継者講習会は、8ヵ月間に亘り2泊3日で教理の教えを継ぐ若者を育成する行事で、この期間中の救護活動でした。救護を担当して1年目でこの大きな行事での役割をいただき、みなさまに支えていただいたこと大変感謝致します。おかげさまで第25次3月24日をもち、救護も無事終了致しました。当初夏の時期は、熱中症や食中毒を危惧しながらの救護でした。冬季は厳しい寒さの中で、子供連れで受講する方や仕事の休みを調整し忙しい中を受講する方も多く、インフルエンザ対策を強化しての38母屋での宿泊救護の日々が続きました。参加頂いたみなさまの、熱心で心温まる救護活動により、大過なく終えることができました事、誠にありがとうございました。

本部行事の救護に於きましては、みなさまのご支援が大きな力になっております。参加希望のある方へのお知らせがスムーズに運ぶよう整えていきますので、これからも何卒お力添えをよろしくお願い致します。

尚、ご不明な点や救護をご希望の方は、健康管理室まで、連絡をお待ちしております。

【平成29年度救護報告】

救護内容	救護回数	ひのきしん看護師 救護員数（述べ数）	憩の家看護師 救護員数（述べ数）
通常年間救護	57回	35人（88人）	51人（54人）
こどもおちばがえり救護 昼の部 14か所×10日 夜の部 4か所×10日	180回	37人（66人）	83人（126人）
			医療大学学生（述べ数） 133人（449人）
後継者講習会救護 5×25次	125回	36人（94人）	82人（92人）

～救護ひのきしん申し込み方法～

- ・救護ひのきしんは、1ヵ月前までを目安で申し込みをお願いします。
- ・こどもおちばがえり救護ひのきしんの救護時間は、昼の部、夜の部があります。
昼の部 8：00～16：00（昼食あり）
夜の部 16：00～21：00（夕食あり）
*集合、終了時間の都合が悪い方は申し出てください。

連絡先 TEL： 0743-63-5611 内線 8647 健康管理室（岡田三枝）

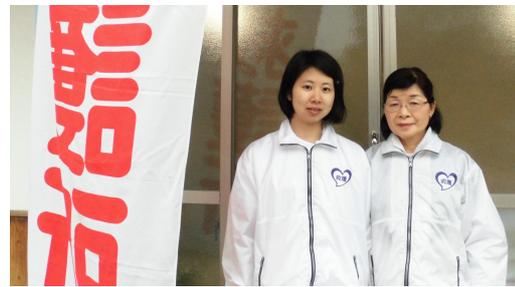
メールアドレス：obkyuugo@tenriyorozu.jp

健康管理室室長 医師 種田和清

いつも救護にご配慮をいただきありがとうございます。

特に昨年度は8月から3月にかけて25次にわたって後継者講習会が開催され、多くの方に格別のご協力をいただきました。参加者は20～40歳の若い方々でしたので乳幼児を連れての参加者も多く、ことに今年はインフルエンザの格段の流行もあり、体調不良を生じる方も多かったのですが、その都度適切な判断で大事に至ることもなく終了させていただきました。

本年度はこうした大きな行事はありませんが、大祭・月次祭や各会の総会、また「おちばを賑やかに」の主旨のもと、こどもおちばがえり等多くの行事が予定されています。教会本部からもこうした行事が無事開催されるのも救護のおかげと高い評価をいただいています。ご多忙とは存じますが引き続きご助力をいただきますようお願い申し上げます。



教祖御誕生祭救護ひのきしんにご参加くださった方々と

編集後記

10年に1度開催される後継者講習会を終え、また新たな1年目を迎えました。昨年度は関係各位が心を寄せて後継者講習会に尽力する一方、次代の信仰を担う受講者の熱き思いにも触れ、自身の信仰のあり方を考えさせられる1年でした。同窓会は今後のあり方を検討すべき時代がやってまいりました。天理看護学院が閉校し新たな卒業生を迎えることがなくなった今、他校との連携が益々必要になっています。同窓会通信が継続することになり、そのなかで経緯をお伝えできればと思います。今後とも同窓生の皆様のご協力、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

同窓生からのおちばで目にした風景を懐かしく思う声を聞き、今回はカラーで写真を載せさせて頂きました。写真提供を頂いた方、また寄稿に快く応じて下さった方々にお礼を申し上げます。

皆様またおちばでお会いしましょう！ (S.K)

発行元：天理看護学院同窓会
奈良県天理市別所町 80-1
天理医療大学内